

道北地域の景気の基調判断を据え置きました（2012年11月）

皆さん、こんにちは。いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

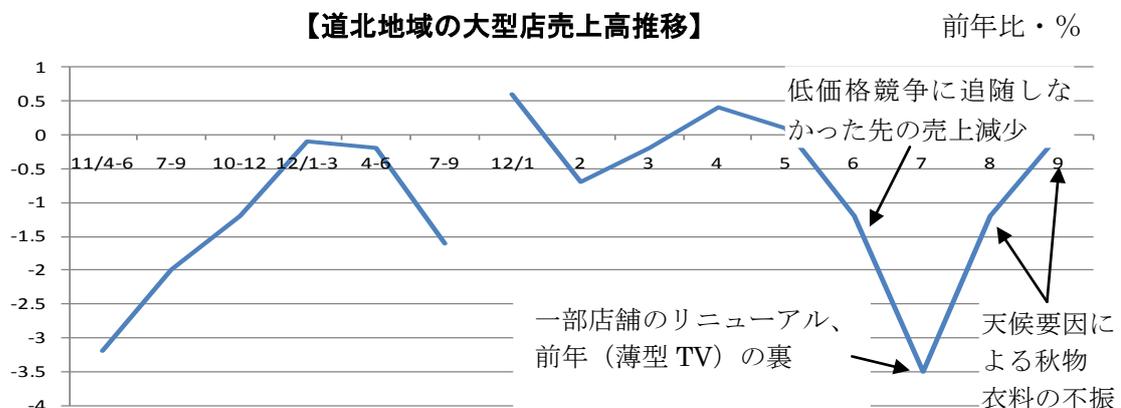
さて、11月14日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を据え置き、「横這い圏内で推移している」としました。この基調判断は2か月連続となります。需要項目別にみると、個人消費（観光を含む）は持ち直しの動きが鈍化しています。大型店売上高は足もと秋物衣料の不振等から弱めの動きとなりました。自動車販売はエコカー補助金終了に伴い増勢が一服し、横這い圏内の動きとなっています。観光は全体として持ち直していますが、9月は紅葉の時期の遅れの影響もあって改善のテンポが一時的に鈍化しました。公共投資は低水準ながら足もと農業基盤関係工事の増加もあって、下げ止まりつつあります。設備投資は低水準で推移しています。住宅投資は持ち直しの動きに一服感がみられています。この間、雇用情勢は労働需給面を中心に改善の動きが続いています。生産は強弱区々の動きとなっています。農作物の作柄は、米作・畑作ともに総じて良好でした。

今月は全体の基調判断は据え置きました。ただし、今のところ目立ったプラス材料は見当たらない一方で、懸念材料は少なくなく（観光における最近の日中関係の影響<特に来年の春節>、公共投資における農業基盤関係工事の発注の一巡、国内景気の悪化に伴う製造業の生産面への影響等）、先行き不透明感はこのところやや強まっているようにうかがわれます。

主な特徴点は下記の通りです。それ以外については、[金融経済概況](#)をご覧ください。

まず、個人消費（観光を含む）です。

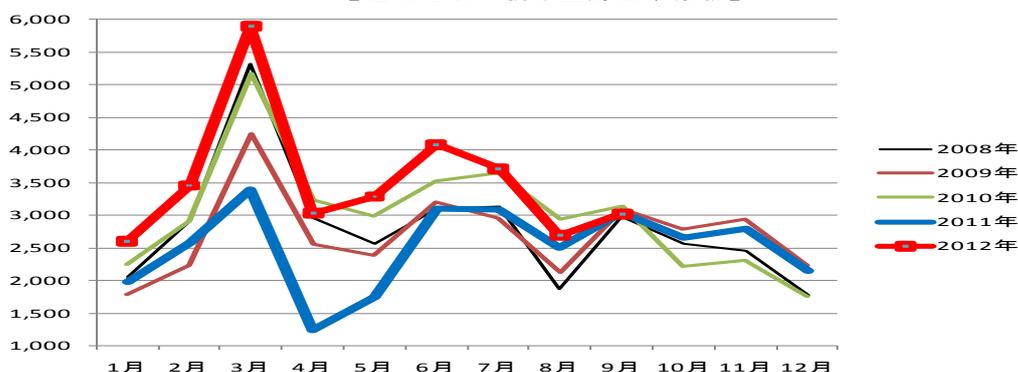
大型店売上高は足もと秋物衣料の不振等から弱めの動きとなりました。7～9月では△1.6%と、4～6月（△0.2%）に比べ減少幅が拡大しました。月別には、8月（△1.2%）は月後半に気温が上昇し秋物衣料の出足が鈍かったことが響き、減少しました。9月（0.0%）は厳しい残暑が続き、秋物衣料が引続き不振であった一方、食料品が涼味類の販売好調等から堅調であったため、全体では横這いの動きとなりました。



新車登録台数はエコカー補助金が9月21日交付申請受付分で終了したことに伴い増勢が一服し、横這い圏内の動きとなっています。9月は微減（△0.5%）となり、2011年9月以来12か月振りに減少しました。もっとも、軽乗用車（9月は+5.9%）やハイブリッドカー等低燃費車人気が続いているため、大きな反動減はみられていません。

【道北地域の新車登録台数推移】

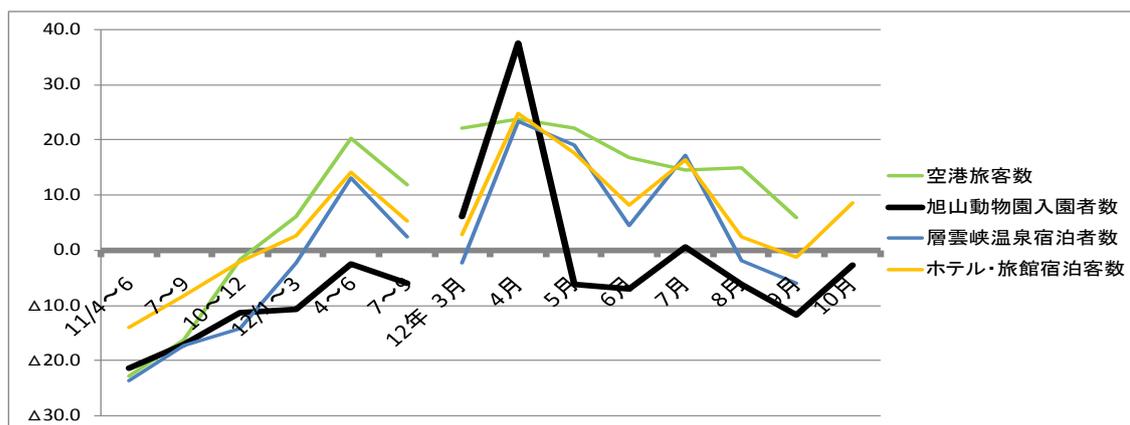
台



観光は四半期で見ると2011年4～6月を底に持ち直しています。7～9月も全体としては持ち直していますが、紅葉の時期の遅れもあって、改善のテンポは一時的に鈍化しました。月次で見ると9月は空港旅客数が増加した一方、ホテル・旅館宿泊者数や旭山動物園等は減少となりました。なお、10月はホテル・旅館宿泊者数は増加に転じた（+8.6%）ほか、旭山動物園入園者数も△2.6%と、8月（△6.1%）、9月（△11.8%）に比べて減少幅が縮小するなど、9月に比べ改善傾向にあります。

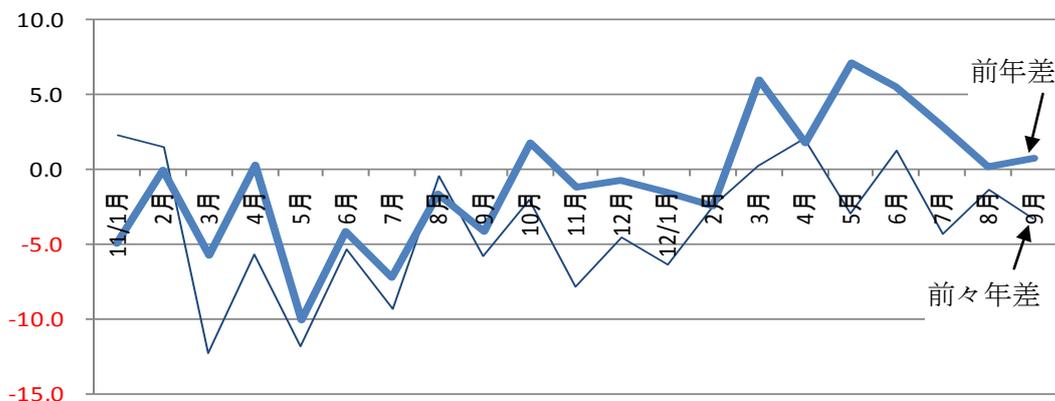
【道北地域の観光動向】

前年比・%



旭川地区における宿泊施設の客室稼働率の前年差および前々年差（昨年の震災の影響を取り除くため）推移をみると、下図の通り、前年差では8月、9月とも震災のあった前年を幾分上回っており、持ち直しの動きが続いていますが、7月までと比較すれば改善幅は縮小しました。前々年差では4月まで順調に回復した後、一進一退の動きとなっています。

【旭川地区の宿泊施設の客室稼働率の前々年差推移】 %ポイント

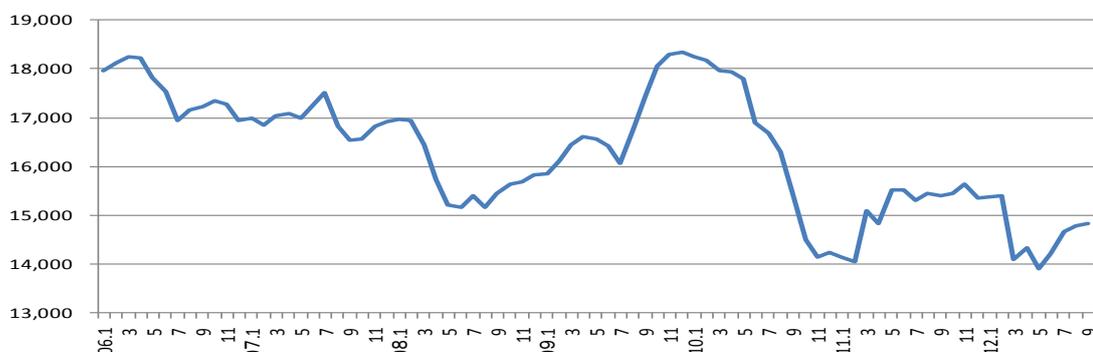


観光客別にみると、まずインバウンド観光客については、台湾やタイ等中国・韓国を除くアジアからの観光客は引続き増加しており、全体では持ち直しの動きが続いています。この間、中国人観光客は、最近の日中関係の影響から減少しています。来年の春節についても、中国人観光客については「期待できないのではないか」(層雲峡のホテル)との見方が多くなっています。

国内(道内・道外客)観光客については、本州(東京スカイツリー等)や海外に注目が集まっていることや、今年は紅葉の時期が例年に比べ2週間ほど遅れたこと等から一部で弱い動きがみられました。10月以降について、旭川市内では「イベント需要からまずまず」(旭川市内のホテル)との声が聞かれました。

公共投資は下げ止まりつつあります。9月の公共工事請負金額をみると、上川総合振興局管内で旭川(23震災関連)庁舎新設等建築工事(741百万円)や士別道路事務所管内敷島地区舗装外一連工事(383百万円)があったほか、農業体質強化基盤整備促進事業関係の発注もみられたことから、3総合振興局合計では4か月連続で増加しました(前年比:+3.6%)。振れを均すため後方12か月移動平均でみると、下図の通りです。

【道北地域の公共工事請負金額推移(後方12か月移動平均)】 百万円

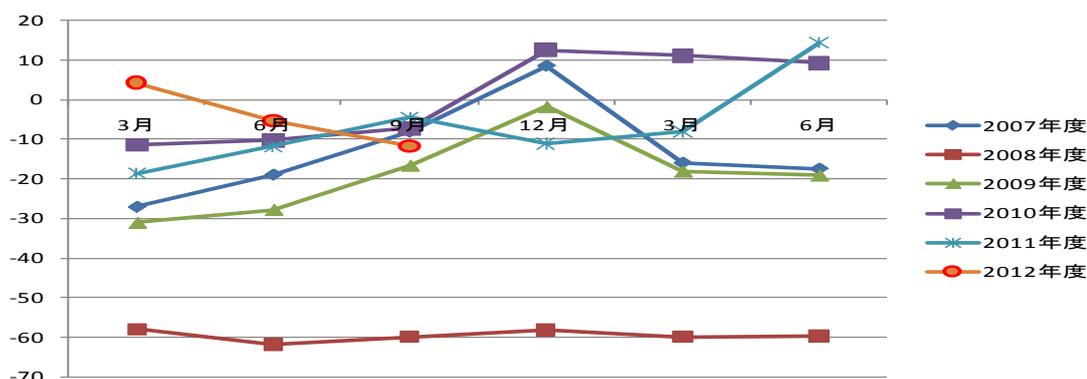


設備投資は、低水準で推移しています。

道北地域の「企業短期経済観測調査」（2012年9月調査）における2012年度の設備投資計画は、6月調査比△5.7%下方修正され、△11.7%の減少となりました。9月の前年度比下方修正は、円高や欧州経済の減速に伴う製造業の下方修正によるものです。

【道北地域の短観・設備投資計画の修正状況推移】

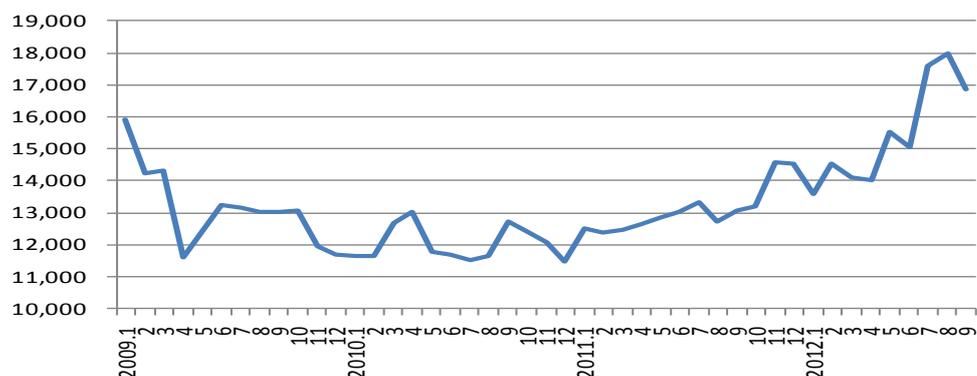
前年比・%



設備投資と関連性がある建築確認申請床面積（非居住用）については、9月は3か月振りに減少しましたが、振れを均すために12か月後方移動平均でみると、下図の通り、2011年以降、着実に持ち直し、2009年初の水準を上回っています。

【主要4市の非居住用建築確認床面積推移（後方12か月移動平均）】

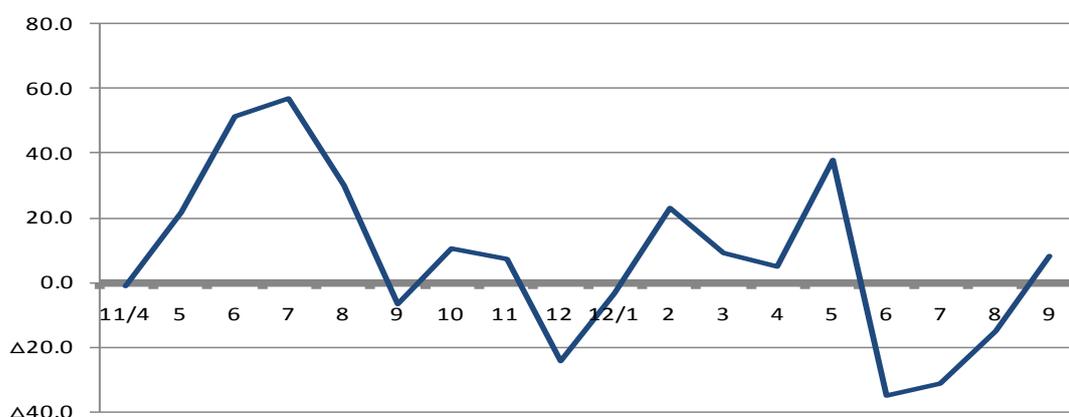
m²



9月の新設住宅着工戸数は4か月振りに増加しました（+8.3%）。6～8月の大幅な減少は前年（住宅エコポイント終了前の駆け込み需要等から大幅に増加）の裏要因によるものであり、このところ実勢ではさほど大きな変動はみられていません。基調判断については、前年6～8月に大幅に増加した後、「持ち直しの動きに一服感がみられる」で変更ありません。

【道北地域の新設住宅着工戸数推移】

前年比・%



農作物（10月15日現在）は、9月中旬以降の降雨の影響で秋まき小麦の生育が遅れています。ただし、今年の農作物の作柄は、8月後半以降の気温の上昇から、米作、畑作ともに総じて良好な結果となりました。このうち主力の水稻（うるち）の作況指数（10月15日現在、農水省調べ）をみると、上川では106と全国の102を上回っています。また、平成24年産米の市況も堅調に推移しています（北海道産のななつぼしの相対取引価格＜平成24年9月、農水省調べ＞前年比：+11%）。

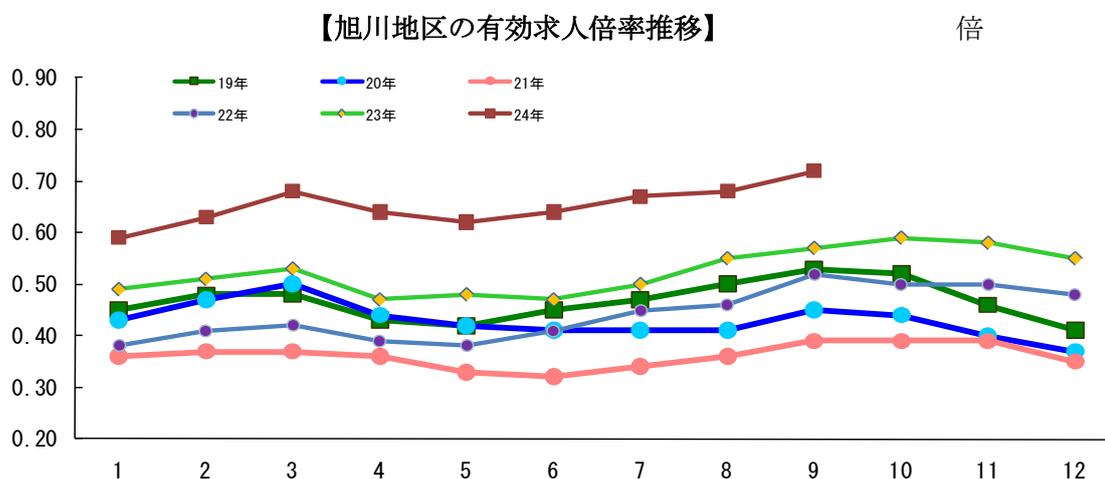
9月のオホーツク漁業（稚内、網走、紋別、枝幸港の4港合計）は、数量（+10.8%）、金額（+3.8%）ともに増加しました。数量面ではほっけ、かれいが減少した一方、すけそう、ほたて、秋鮭が増加しました。金額面でもかれい等が減少したものの、すけそう、秋鮭が増加したことから増加しました。

製造業は、強弱区々の動きです。製材の生産は円高に伴う輸入材との競合を主因に7か月連続で減少しました。合板の生産は減少しましたが、手間のかかる高付加価値品へのシフトが主因であり、実態的にはフル生産が続いています。紙・パルプは、輸入品との競合等から印刷用紙が減少したものの、雑種紙（紙器）が稼働率向上のため一部を輸出に振り向けたことなどから全体では増加しました。電子部品関連は、新製品の作り込みの終了から大幅な減少となっています（合板は8月、その他は9月計数に基づく）。

雇用情勢は、労働需給面を中心に持ち直しの動きが続いています。

労働需給は改善しています。9月の有効求人倍率は、4地区すべてで前年を上回りました。旭川地区の有効求人倍率（下グラフ参照）は、前年を上回る状態が続いています。9月の旭川地区における常用新規求人数は+15.9%の増加となりました。業種別には医療・福祉（+24.8%）や建設（+93.4%）の増加が目立っています。このように雇用情勢面で改善の

動きが続いています。ただし、雇用・所得環境については、求人・求職間の構造的なミスマッチが存在していることや厳しい所得環境（国家公務員や独法で大幅な給与削減等）を割り引いてみる必要があります。



今年はお盆頃まであまり気温があがらず、それ以降暑い日が続きました。農作物は幸い後半に気温が上昇することでキャッチ・アップし、総じて作柄は良好でした。一方、個人消費については残暑が厳しかったことから秋物衣料が不振となったほか、観光についても紅葉の時期の遅れによる影響がみられました。やはり景気にとっては、夏は夏、秋は秋らしい気候が望ましいようです。その意味では今年には道北らしい寒い冬となることを期待したいところです。同時に、今年の冬の電力需給は厳しいことが予想されていますので、不測の停電による経済への悪影響を避けるためにも、企業・家計を問わず皆で力を合わせて節電に協力し、政府の今冬の電力需給対策で示された「北海道は平成22年度比で7%以上の節電」という目標以上の成果をあげることが大事であると思います。

2012年11月14日
荒木 光二郎